

総明会会報



「人間教師」や「昔の仲間」との 触れ合いの場を求めて

総明会会长 坂本朝一

私は昨年、総明会々報のこの号に寄せて、同窓会の席上で大いに語り合おうと呼びかけた。この考え方は今年も変りはない。老いも若きも、先輩も後輩も語り合うと言う場は、すう多くはない。最近はニューメディアが発達して、各会社の責任者を東京へ集めることもなく、TV会議と称して、映像を以て、所謂TV電話スタイルでの会議で能率をあげていると聞く。

国際競争の中で生き抜いてゆく企業は経営合理化は至上命令

それでなければ生き残れない。

従って、これらの施策は当然のこと。そう言う面でも日本はト

ップグループを走っているようだ。

そんな状態なのに、年に一度は「サミット」と称して、世界のトップが一同に会して話し合ふのは何故だろう。それこそ通信衛星を使って、TV会議でもやればいいじゃないかと言う声も聞く。

私も、国家公安委員を依頼され、あの五月のゴールデンウイークの「サミット」には、瘦せる思いをした。一部の人達

には、「過剰警備だ!」と文句を言われ、その癖、いささかでも

間違いが起れば警備の方はどう

なつてゐると言われる始末。

しかし、結果的には人身事故等起らず、レーガン大統領からも、サッチャード相からも「日本

の警備陣は万全だった」と賞讃の声と感謝の言葉が寄せられたとのこと。お蔭様で関係者一

んな思いをしてまで一同に会して話しかわなければならないのか。中には人騒がせとか、あの警備のため特別予算が数十億使われたのはどんなものかとかの批判も聞かないではない。

そこで、人間同志の会話とすることは物理的なことでなく、スキンシップ、肌と肌とのふれ合

いが欠かせないのだと言うことではないだろうか。

選挙などでよく、候補者が選挙民と握手をして、日に何百、何千と言う回数になり、宿舎に帰ると手がはれ上つて水で冷し、あくる日又、握手をくりかえす。しかも場合に依れば、わざわざ手袋を外してまで握手を求めるところ。考え方によつては、いささか動物的感覺と言つて言えなくもない有様。

このことを教育の場に置きかえて考えて見よう。

放送大学、これは今年は二年目を迎えた。初年度の華々しさから見れば、今年は多少生徒募集に苦労されたようだが、生涯教育の意味合いもあって、推進

NHKでもTV、ラジオを使

つての高等学校の教育に協力しているのは御承知の通り。これも予想以上の成果をあげている。

しかし、これらの教育もスクリーニングと言う先生と生徒と直接ふれ合う教育の場を持っている。

そしてそこで格別の教育効果をあげているのである。

私はいつもNHK学園のスク

リーニングの話を聞いたり、卒業式に参列する生徒たちの話を聞いたり、その姿を見ると教育と

いたり、その姿を見ると教育と

り、その姿を見ると教育と

り、その

活動基金の一層のご協力を!!

会計 大場 隆之

総明会総会も、年々、多数の参加会員を動員して、活況を呈しておりますが、この勢いを更に次代へ向けてつないでゆきますために、より一層多くの基金が必要です。

すでに、会員各位にお願いして「年会費」の徴収を行なっておりますが、なお、一部の学年では、学年委員の選出など組織化が遅れおり、残念ですが、

聴いいただき、広く各位の御支援をお願いする次第です。
なお、昭和六十一年度予算(案)を掲載いたしましたので、ご参照ください。

上記の通り報告いたします。
昭和61年3月31日

監査の結果相違ありません。
昭和61年3月31日

会長 坂本朝一
会計 大場隆之
同 二村昌也

監査 館野春男
同 大西新二

いまもってご協力の得られぬところがみられます。

つきましては、同窓会、OB会など身近かな会合がございましたら、是非、この主旨をご吹

いてください。

クラブOB会の行事の内容も

保坂校長、清水中学教頭との話

し合いにより変ってきました。

これまで毎年七月に現役クラブの合宿の一助にと、加盟各クラブに米代として一万円を賛助

しておきましたが、昨年度より

加盟、未加盟の別なく、総額を

まとめて学校長にお渡しするよ

うになりました。また十一月に

クラブ顧問の先生との懇親会を開いておりましたが、これも加

盟、未加盟の別なく全ての先生

に出席いたゞき、明治高校の生徒ホールで開催するようにな

っております。

本年度より、御勇退になる先

生に対し御勇退記念の会を、

クラブOB会主催、同窓会協賛

で開催することになりました。

本年度は、境田、西山、雨宮、

村田の四先生が御勇退になり、

三月八日新橋第一ホテル弥生の

間にて、開催いたしました。今

は無き二高の、OBの方々にも

御出席いたゞき、一三〇名以上

の出席者で、青春時代の昔話に花を咲かせて楽しい会を催すこ

とが出来ました。

☆クラブOB会に加盟希望のク

ラブは左記までご連絡下さい。

明高クラブOB会事務局

〒125 東京都葛飾区青戸
電話 695-5243

編集後記

☆33年卒同期会の諸君ご苦労さん。決起集会を兼ねた同期会に始まり、予定を上回る広告の成果、原稿の取りまとめ、編集作業と一ひとほど疲れたというのが実感。でもまだ安心するの早い、総会の成功に向けて余力をふりしぼろうではないか。

その晩には乾杯、
☆合同印刷さん、又先輩や向殿君をはじめとする前年度の幹事の皆さん大変お世話になりました。

昭和十八年卒業

藤本善太郎

港区南青山二丁目三丁目
○三四〇一五三七四

クラブOB会報

事務局 小川 滋

創業二七五年

吉徳大光

皆で助け合う明高精神に感謝!
☆新聞の文字を大新聞並に大きくしたので広告スペースが例年より小さくなり、ご迷惑をおかけしました。明高精神に免じてお許し下さい。

港區西新橋三丁目五八
中央ビル六F(三十四三七
五七三)

(株)渡邊商店
昭和二十五年卒業
杉並区阿佐谷北二丁一四一八
三八八一四五八八

渡邊喬

君塚美明

君塚美明法律事務所
昭和二十八年卒業

昭和十八年卒業
落合博
有落合製材社

昭和三年卒業
大堀雅義
細田木材工業株
大木材株

昭和九年卒業
細田悌治
細田木材工業株
大木材株

昭和三年卒業
大出彰
大出産業株

昭和三年卒業
渡辺徹郎
昭和三年卒業
渡辺徹郎
南九三商店

昭和三年卒業
三輪勲充
三輪木材株

昭和七年卒業
細田悌治
細田木材工業株
大木材株

昭和七年卒業
野澤康衛
丸水商店

昭和八年卒業
小川洋一
丸水商店

昭和八年卒業
村井宏二
数矢製材株

昭和七年卒業
郷野純絃
丸市商店

昭和七年卒業
大出宏
大出産業株

昭和八年卒業
三輪勲充
三輪木材株

昭和九年卒業
鈴木政明
福寿木材株

昭和四年卒業
鈴木正之
株京正商店

昭和四年卒業
吉村壹郎
吉村商店

昭和四年卒業
中村多喜雄
中村木材株

昭和四年卒業
小川秀次
小川商店

昭和四年卒業
松崎弘泰
松崎商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

昭和四年卒業
木下登志一
木下商店

昭和四年卒業
平塚敬太郎
京梅商店

昭和四年卒業
酒井晴比古
酒井木材株

昭和四年卒業
庄野國彦
庄野商店

昭和四年卒業
森暁二郎
森平岩商店

昭和四年卒業
酒井木本
木本下商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

昭和四年卒業
木下登志一
木下商店

昭和四年卒業
平塚敬太郎
京梅商店

昭和四年卒業
酒井晴比古
酒井木材株

昭和四年卒業
庄野國彦
庄野商店

昭和四年卒業
森暁二郎
森平岩商店

昭和四年卒業
酒井木本
木本下商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

昭和四年卒業
木下登志一
木下商店

昭和四年卒業
平塚敬太郎
京梅商店

昭和四年卒業
酒井晴比古
酒井木材株

昭和四年卒業
庄野國彦
庄野商店

昭和四年卒業
森暁二郎
森平岩商店

昭和四年卒業
酒井木本
木本下商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

昭和四年卒業
木下登志一
木下商店

昭和四年卒業
平塚敬太郎
京梅商店

昭和四年卒業
酒井晴比古
酒井木材株

昭和四年卒業
庄野國彦
庄野商店

昭和四年卒業
森暁二郎
森平岩商店

昭和四年卒業
酒井木本
木本下商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

昭和四年卒業
木下登志一
木下商店

昭和四年卒業
平塚敬太郎
京梅商店

昭和四年卒業
酒井晴比古
酒井木材株

昭和四年卒業
庄野國彦
庄野商店

昭和四年卒業
森暁二郎
森平岩商店

昭和四年卒業
酒井木本
木本下商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

昭和四年卒業
木下登志一
木下商店

昭和四年卒業
平塚敬太郎
京梅商店

昭和四年卒業
酒井晴比古
酒井木材株

昭和四年卒業
庄野國彦
庄野商店

昭和四年卒業
森暁二郎
森平岩商店

昭和四年卒業
酒井木本
木本下商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

昭和四年卒業
木下登志一
木下商店

昭和四年卒業
平塚敬太郎
京梅商店

昭和四年卒業
酒井晴比古
酒井木材株

昭和四年卒業
庄野國彦
庄野商店

昭和四年卒業
森暁二郎
森平岩商店

昭和四年卒業
酒井木本
木本下商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

昭和四年卒業
木下登志一
木下商店

昭和四年卒業
平塚敬太郎
京梅商店

昭和四年卒業
酒井晴比古
酒井木材株

昭和四年卒業
庄野國彦
庄野商店

昭和四年卒業
森暁二郎
森平岩商店

昭和四年卒業
酒井木本
木本下商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

昭和四年卒業
木下登志一
木下商店

昭和四年卒業
平塚敬太郎
京梅商店

昭和四年卒業
酒井晴比古
酒井木材株

昭和四年卒業
庄野國彦
庄野商店

昭和四年卒業
森暁二郎
森平岩商店

昭和四年卒業
酒井木本
木本下商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

昭和四年卒業
木下登志一
木下商店

昭和四年卒業
平塚敬太郎
京梅商店

昭和四年卒業
酒井晴比古
酒井木材株

昭和四年卒業
庄野國彦
庄野商店

昭和四年卒業
森暁二郎
森平岩商店

昭和四年卒業
酒井木本
木本下商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

昭和四年卒業
木下登志一
木下商店

昭和四年卒業
平塚敬太郎
京梅商店

昭和四年卒業
酒井晴比古
酒井木材株

昭和四年卒業
庄野國彦
庄野商店

昭和四年卒業
森暁二郎
森平岩商店

昭和四年卒業
酒井木本
木本下商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

昭和四年卒業
木下登志一
木下商店

昭和四年卒業
平塚敬太郎
京梅商店

昭和四年卒業
酒井晴比古
酒井木材株

昭和四年卒業
庄野國彦
庄野商店

昭和四年卒業
森暁二郎
森平岩商店

昭和四年卒業
酒井木本
木本下商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

昭和四年卒業
木下登志一
木下商店

昭和四年卒業
平塚敬太郎
京梅商店

昭和四年卒業
酒井晴比古
酒井木材株

昭和四年卒業
庄野國彦
庄野商店

昭和四年卒業
森暁二郎
森平岩商店

昭和四年卒業
酒井木本
木本下商店

昭和四年卒業
坂田真彰
坂田商店

総明会会報

同期だより

82歳の卒業生

片岡龍夫

五明会(大正10年第5回卒)

今年は卒業六十五年目、みんな八十二才をこした。卒業当時一〇一名が現在二八名となつてゐる。親しい友達が一人一人欠けていくのはなんとも寂しいことだ。だが元気な我々は毎月五日の正午、スカヤ橋のニュートーキヨーの二階に集り、ビールで乾杯、雑談に時を忘れ楽しんでいる。又毎年五月には一泊旅行を続ける。毎年五月には新緑の伊豆小峰君が元気な顔を見せてくれた。顔が揃えば中学時代の昔にかえり、気楽さに酒のまわりもよく楽しい夢を結ぶこととなる。

その他会員相互のコミュニケーションのために季刊で会報「五明」を発行している。現在66号になっているが地方会員には大変喜ばれている。今年もみんな元気で会員人数の減らないことを祈つて止まない。

喜寿を迎えて
明士会(昭2年第11回卒)
昭和二年(第十一回)卒業の我々明士会員も殆んどの会員が喜寿を迎える年になりました。改めて八年だなあゝと感無量のものがあります。停年になり閉居の身の者も大分居りますが未だ第一線で活躍して居る会員未だ第一線で活躍して居る会員も大勢居ります。

今年は卒業満六年で還暦を迎える事になるので之を記念して色々計画を立て、居りますがその内の一つとして既に故人にな

られた会員の法要を遺族の方々を迎えて行いたいと目下準備中です。又毎發行して居る明士会名簿を六十年記念号として明士会的役割をする会報として大いに活躍を期待して居ります。

今年の一月に我等の最も親しみのある野木先生が逝去せられ我が会員の野玉君が先生の教子代表として弔詞を捧げました。

昭八会 宗像健一郎
昭八会という名のあらわすと題の多かった偉丈夫、元文化服装学院の教授、宇田川精一君を失いました。残念です。同君曰頃の人柄か会員の多数が会葬されました。会員中唯一の芸術家水谷春夫君昨年も第五回の個展を銀座セントラル画廊で開き大いに意氣を上げられました。画評も年と共によろしいようです。

御承知のガンの大冢北里大学の秦先生、いよいよ若く、活躍は敬服の至りです。健康の指導よろしくお願いします。世話人一同

現在、住所の判る範囲で三十名どが、前回の例会後物故し、その姿を見られなかつたことである。

こんなわけで、数も減り、故障者も多くなつた我々の仲間がなか出られないことを、悪しからずご諒承願いたい。

庄繁大将の息子の本庄二郎君などは、前回の例会後物故し、その姿を見られなかつたことである。

我々は懐かしの明中を巣立しました。そんな時世の流れも手伝つて在校中は同期の悪童連の業績も華やかで、「窓硝子まれ、会員の消息もさだかでなく、その数もつかめない」という現状である。わたし自身、十何年か昔、青山会館での会合で、なつかしい同期の友に再会したとき、会の存在を知つたぐらいである。会がいつ誕生したか、今もって知らない。昨春、会の状態を心配した高木正夫兄が、会の再建を考え、YMCAに会合をもつたが、集まる者わずか五名。というわけで、市川康夫、野口憲正両兄とわたしが幹事を引きうけるはめとなつた。とにかく年会費を集め、総明会へ納める金、それに通信費、印刷代等に充てることになった。昨年十一月、猿楽町の川松なる小料理で、再興の総会を開き、七人の同志が出席され、歓談裡に旧交をあたため、その際会則をつくった。また、会報を発行、わかる限りの会員に送つた。会員相互の親睦を深め、交流をはかるというのが、目的として会則にうたつてある。で、本年も、東京の西さいはての奥多摩へ旅行し、楽しい思い出をつくつた。話もはずみ、忘れ難い一夜をすごした。来年はもっと多くの参加者をと期待して旅行は終つた。

伐とした軍事色に包まれていた頃、我々は懐かしの明中を巣立しました。そんな時世の流れも手伝つて在校中は同期の悪童連の業績も華やかで、「窓硝子

伐とした軍事色に包まれていた頃、我々は懐かしの明中を巣立しました。そんな時世の流れも手伝つて在校中は同期の悪

同期だより

戦時の明中生
午己の会(昭21・22年卒)

戦時の特例措置で四年卒業という制度が、二十一年・二年の二度実施されたことにより、この期にはともに十七年に入学しながら、二十一年三月に四年で卒業した者と、旧に復した制度により二十一年に五年で卒業した者とがいる。

われわれは幼少年時代を戦争とともに過ごした世代である。

つまり小学校への入学は日支事変の勃発した十二年の前年、二

・二六事件の年である。そして中学への入学は太平洋戦争開戦の四ヶ月後、十七年四月である。

十九年秋から工場や東京駅・上野駅で、戦場へ出た大人のかわりに作業に従事したわれわれが、敗戦により学校へ復帰したとき、戦災や病気による死亡、転居などで僅かに一学級が編成されたりすぎなかつた。

しかし現在、斎藤久也・菅田敏男らの諸君の永年に亘る努力で、クラス会の名簿には約九十人の名前が登載されている。(入学者時の三分の二に近い。) クラス会はわれわれが半年・己年の生れであることから「自己の会」(うまみの会)と称し、斎藤会長菅田幹事のリードよろしきを得て年数回の楽しい会合をもっている。(原則として年一回の総会、一乃至二回の旅行会、ゴルフ会)

総明会副会長として小林がお役をつとめることができるもの、級友の強力なバックアップあればこそである。

(小林記)

Tel ○四七四一五三二二九七三

大場隆之

女性会費 五、〇〇〇円

総会に出席だより

谷 正之 副会長

加藤真義 会長

明駿会(昭三十六年卒)

向殿政男 副会長

松枝正弘 部長

明治高校バレー部OB会 部長

大場隆之 事務局

菊池博道 会長

OB会

八七一五四二七 〒110台東区下谷三一四一五

亀井肇 会長

OB会

四一明友会(四十一年卒)

西秋忠男 会計

中堀茂裕 幹事長

伊藤寿 田村正彦

寺村武二 明治高校スキーパー部OB会

昭和三十年卒業同期会

同期会と総会を同一に 明高会(昭27年卒)

新田満夫

昨年はありがとうございました 明駿会(昭36年卒)

加藤真義

明水会

一球会(昭三十三年卒)

明高会の同期生は、五十二才 前後の働きざかりです。

ボチボチ息子の嫁とか、娘の結婚話が話題になるこの頃です。

今年も我々同期は、総明会の総会を盛り上げよいと言う訳で同期会は開催せずに、十一月八日のご参加を皆様にお声を掛けます。本年も、ぜひ予定をして頂く次第です。毎年、変った方が、お顔をみせるので楽しみです。本年も、ぜひ予定をして頂く次第です。毎年、変った方が、お顔をみせるので楽しみであります。

(十一月八日)に開催しよう!!

幹事さん

よろしく!

ホスト学年の概要

(昭和33年卒) 二村昌也

4月4日本郷の割烹藤屋で開催、43名の参加者があった。

ホスト学年の愛称を募集!!

(昭30年卒) 石田彰之

TEL二五一八二六八

会の愛称を募集!!

(昭30年卒) 米山耕右

連絡係

どうぞ

入場券等の問合わせは、

りませんのでどうか名付親と

なって頂けませんか。同期の方

でなくとも結構です。

前回の会合は60年11月8日(土)

本郷の割烹藤屋さんにて宴席な

懇親会が恩師四先生が御出席の

席は願わなかつた。

さすが我が同期ノ頭の良い奴

は少なかつたが々々彩々皆各分

事が多く、総会の準備会的な色

彩が強かつたので先生方のご出

席は願わなかつた。

さすが我が同期ノ頭の良い奴

は少なかつたが々々彩々皆各分

事が多く、総会の準備会的な色

彩が強かつたので先生方のご出

席は願わなかつた。

さすが我が同期ノ頭の良い奴

は少なかつたが々々彩々皆各分

事が多く、総会の準備会的な色

彩が強かつたので先生方のご出

席は願わなかつた。

同期会の名称は明駿会。2年一度、同期会を開いています。が、昨年は御存知の通り、同総会(総明会)のホスト学年を引き受けることになり、幹事は毎月集まり、打ち合せをやっていました。大役も無事に果し、全員ホットして、一時は気が抜けたようでしたが、最近は、何か寂しく、又、ちよくちよく会いたくなるのは、同期の良さと明か。

昨年の総明会は、御蔭様で成績裏に終ることができました。皆様の御協力に感謝致します。有難うございました。

ホスト学年を引き受け見て見て分かりました。我々同期のまた

まりの良さと友情の厚さ、驚く

功裏に終ることができました。

同期会を開き、来年

にも、厚く感謝致します。

は是非出席して下さい。

最後に、今年のホスト学年、

昭和33年卒業の先輩方の御活躍

をお祈り申し上げます。

是非出席して下さい。

最後に、今年のホスト学年、

昭和33年卒業の先輩方の御活躍

同期だより

同期の皆さん、お元気ですか。今年は十一月中旬（予定）に、同期会（二年に一回）の総会が開催されます。今回は伊藤正啓君が当番幹事として、いろいろ計画してくれています。楽しい会にするため、一人でも多くの方々のご出席をお願いします。（日時、場所などは追って連絡いたします。）

高橋正脩君が事務局を担当してくれています。住所変更や近況連絡などは左記事務局まで、連絡して下さい。

高橋正脩、住所 杉並区成田東2-1-27-1-2。電話 三二三一三二八七

明優会（昭40年卒）

秋冷の候「明優会」皆様にはつつがなく御健勝のことと思われます。

我々昭和四十年卒「明優会」は昭和五十五年に高校卒業以来、初めて四十名程同期諸君が浅草公会堂前の喜多八に集いました。出席された恩師は藤森先生はじめ中野先生、水落先生、村野先生、新井先生であります。

五十七年には赤坂東急ホテルで恩師、松枝先生、水落先生、村野先生、新井先生を迎えて、大いに飲み、語り合いました。

まだまだ組織のきちんとした会にはなっておりませんが、ます同期諸君の住所判明者が百二十名程度ですので、あなたの知っている方で連絡し合っている方、お知らせ下されば幸いです。

「明優会」の同期諸君、又お互いを見つめ直し、励まし合うために、同窓会・同期会に集い会

おうではありませんか。
なお幹事役お引き受けになりた
い方御一報下さい。

四一明友会（昭41年卒）

第二十二回総明会総会開催お
めでとうございます。

我々41年卒は、今日まで同期
会がありませんでしたが、昨年
三月二十三日、上野精養軒に於
いて、七十余名が出席して始め
て同期会が結成しました。

名称は、四一明友会。

同期会には、恩師の伊藤、谷
口、松本、後藤、滝本先生を御
招き申し上げ、盛大の内に開催
し、左記の役員を決定。

会長には亀井肇、事務局菊池
博道、会計大沢富次、小川秀次
幹事に木島孝、尾島育四郎、豊
田和夫、安中新吾、岩崎孝雄、
木下良一、川越豊統、名倉昇、
高沢邦雄、藤川靖夫、橋知紀

次回四一明友会を六十二年に
開催する事を決定、懇親会にう
つり、散会した。

なお新名簿作成中につき、同
期の方の住所、変更がありまし
たら事務局まで連絡下さい。

〒110 台東区下谷三一四一五
菊池博道

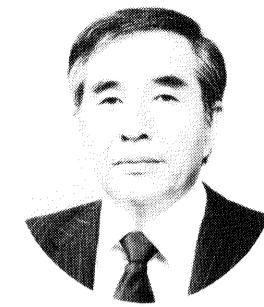
とにかく、あと数年もすれば同期会結成の時間的余裕ができるのではないか。うなづいて、

明治高校柔道部OB会	会長 昭30年卒 旭モールディング(株)	常務取締役 福田一郎
監査役 横浜市立本郷一丁目四番十六号 ○四五三五一一七七七四	副会長 昭30年卒 横浜化学実業(株)	浦和市常盤七丁目二 九一九一三一九一
中里昇吾 石井暢	社長 田中章雄	副会長 昭31年卒 半導体製造装置部品卸
監査役 横浜市東区南本宿町七七 ○四五三五一一七七七四	副会長 昭33年卒 広告総合代理店 雄和企画(株)	千代田区紺屋六 二五二一八四二
丸昇工機(株) 松戸市上本郷一丁目四番十六号 ○四五三五一一七七七四	社長 佐藤康明 (株)丸吉技販	副会長 昭31年卒

監事 新栄観光株 中野区南台三丁二七一三 三七五二一七一七	監事 花崎喜久夫 中野区青柳四〇九六二二 八七五二二六二二	監事 山本金道 足立区東和四二四一五 六〇五十三六〇二	監事 前田テント 千代田区外神田六一六一六 八三一十五八一八	監事 鷺山陸也 大宮市小深作六五九一一二 〇三一五六一七四四四	監事 鷺山隆男 大宮市八幡四一六一八 〇四七三一三四一四六二四	監事 タウンショップ井上 井上和洋 墨田区江東橋一丁一十三 六三四一三七七三	監事 小川洋一 株丸水商店 台東区竜泉三丁二一十七 八七五二二六二二	監事 みとやホテル 中野一郎 台東区青柳四〇九六二二 八七五二二六二二	監事 ハシバ工業 山本金道 足立区東和四二四一五 六〇五十三六〇二
監事 日本工業検査株 中本義行 昭39年卒	監事 昭41年卒 みとやホテル 中野一郎 台東区竜泉三丁二一十七 八七五二二六二二	監事 昭38年卒 株丸水商店 小川洋一 墨田区江東橋一丁一十三 六三四一三七七三	監事 昭38年卒 タウンショップ井上 井上和洋 〇四七三一三四一四六二四	監事 昭36年卒 鷺山商店 鷺山隆男 大宮市八幡四一六一八 〇三一五六一七四四四	監事 昭34年卒 前田テント 千代田区外神田六一六一六 八三一十五八一八	監事 昭34年卒 鷺山陸也 大宮市小深作六五九一一二 〇三一五六一七四四四	監事 昭34年卒 タウンショップ井上 井上和洋 〇四七三一三四一四六二四	監事 昭38年卒 株丸水商店 小川洋一 墨田区江東橋一丁一十三 六三四一三七七三	監事 昭39年卒 日本工業検査株 中本義行 草加市青柳四〇九六二二 八七五二二六二二
監事 日本工業検査株 中本義行 昭39年卒	監事 昭41年卒 みとやホテル 中野一郎 台東区竜泉三丁二一十七 八七五二二六二二	監事 昭38年卒 株丸水商店 小川洋一 墨田区江東橋一丁一十三 六三四一三七七三	監事 昭38年卒 タウンショップ井上 井上和洋 〇四七三一三四一四六二四	監事 昭36年卒 鷺山商店 鷺山隆男 大宮市八幡四一六一八 〇三一五六一七四四四	監事 昭34年卒 前田テント 千代田区外神田六一六一六 八三一十五八一八	監事 昭34年卒 鷺山陸也 大宮市小深作六五九一一二 〇三一五六一七四四四	監事 昭34年卒 タウンショップ井上 井上和洋 〇四七三一三四一四六二四	監事 昭38年卒 株丸水商店 小川洋一 墨田区江東橋一丁一十三 六三四一三七七三	監事 昭39年卒 日本工業検査株 中本義行 草加市青柳四〇九六二二 八七五二二六二二
監事 日本工業検査株 中本義行 昭39年卒	監事 昭41年卒 みとやホテル 中野一郎 台東区竜泉三丁二一十七 八七五二二六二二	監事 昭38年卒 株丸水商店 小川洋一 墨田区江東橋一丁一十三 六三四一三七七三	監事 昭38年卒 タウンショップ井上 井上和洋 〇四七三一三四一四六二四	監事 昭36年卒 鷺山商店 鷺山隆男 大宮市八幡四一六一八 〇三一五六一七四四四	監事 昭34年卒 前田テント 千代田区外神田六一六一六 八三一十五八一八	監事 昭34年卒 鷺山陸也 大宮市小深作六五九一一二 〇三一五六一七四四四	監事 昭34年卒 タウンショップ井上 井上和洋 〇四七三一三四一四六二四	監事 昭38年卒 株丸水商店 小川洋一 墨田区江東橋一丁一十三 六三四一三七七三	監事 昭39年卒 日本工業検査株 中本義行 草加市青柳四〇九六二二 八七五二二六二二

監事	昭41年卒	中島平人
墨田区太平一丁目六十八 六二五十四一二三九		
監事	昭42年卒	石井康男
荒川区東日暮里五十九十二 八九一十六三五二		
監事	昭42年卒	石丸屋百貨店
西多摩郡五日市町一八七八 〇四二五十九六一〇五四		市倉務
千代田区外神田六一四一六 八三三一四八七四		
昭和三十一年卒	竹原延行	
昭和三十三年卒	竹原商事(株)	
代表取締役		
遠藤純		
サソビジネス(株)		
千代田区麹町五丁三 二六四一四〇八一		
昭和三十四年卒		
株式会社 東洋技研		
代表取締役		
磯時男		
足立区西伊興町一四十三八 八五五十五二七一		

昭和三十三年卒	島津恒雄	割烹・鮓用鮮魚 〔有〕島津商店	昭和三十三年卒	自宅(五五二)七五五七
蒲鉾 国吉	二宅洋右	(五四一)〇七三〇		
鮭・タラコ・筋子 〔有〕小林徳太郎商店	小林将晃	昭三十三年卒		
鮭・タラコ・筋子 小林和夫	昭四十年卒	(五四三)一九六〇		
鮭・タラコ・筋子 〔株〕小野邦清商店	小野洋	昭和四十七年	店 (五四二)七四一九 事務所 (五四二)七二三三	



予備校から見た 明高生

駿台予備学校校長
山崎春之

我が母校も質実剛健、独立自治を教育理念として本年で七十五年を迎えるわけであります。その間、培われた伝統を重んじ、輝かしい成果を挙げられましたことは先達をはじめ教職員の方々の並々ならぬご努力の賜物であると確信し、心から敬意を表します。

この度、「予備校から見た明高生」をテーマに原稿の依頼をお受けしたわけですが、明高のO・B(十八年卒)としてまた、教育に携わる者の一人として、日々感じているところを申し上げたいと思います。

受験という言葉がいまほど多くの若い人の上に重くのしかかっている時代はないと思います。一般社会において大卒者の占める割合も少なくありません。今や時代は大きく変わり、国際化、情報化社会といわれ、我国も二十一世紀に向い、より秀でた創造性・判断力を備えた人材が広く求められるわけですが、このような力の基礎は学校教育の中で形成されるのではないかと思います。明日を担う若者が厳しい試練に耐えることなく、困難に向かって果敢にチャレンジする、所謂不撓不屈の精神を養う得るよう日頃の学習生活を通して指導していく必要があるかと存ります。明高生諸君も三学年

いても高校時代は体力的に最も成長する時期であり、どんなスポーツでも打込めば打ちむ程度が鍛えられ技も磨かれるでしょう。日頃受験生に接する機会が多いのですが、我々の時代とは異なり、体の大きな学生が多く見受けられます。しかし、体の大きなことと体力のあることは異なり、逆に体が小さく多いのです。しかし、多くの見受けられます。かつての明高は、全国の高校野球大会で上位に進出したり、現在もバレー・バスケット・テニス等幅広く活躍しておられ大変頗るしく思いますが、今後もより以上の活躍を心から期待しております。

さて、高校への進学についてもなれば、来春の大学入試の為の準備に入つておられることがございますが、そこで一言申し上げたいことは、周囲に左右されず自分の意思で自分の進むべき路を決定して頂きたいといふことです。「皆が大学へ行くから僕も行く」、「彼がやるなら僕もやる」といった「も」が氾濫している中で、「皆はやらなくて僕はやる」、この「は」と思はつきり言える人になって頂きたい。常に集団の中へ自分を守らされているといつた所謂過保護的な面が見られ、周囲との競争心が薄らいでできているように思ひます。やはり付属だから入学を希望するのではなく教育目標がしつかりしている、或いは校風に魅力を感じる等の理由によって入学され、充実した学校生活を送つて頂きたいと思いま

す。また、どのような学校においても、そこで教える側の教師と教わる側の生徒との間に信頼関係がなくてはならないと思います。また、どのよだな学校においても、そこで教える側の教師と教わる側の生徒との間に信頼関係がなくてはならないと思います。最後に明高生の今後の活躍を心から期待しております。

立六十八年目となりますが、その間、講師・学生、そして教材を三つの柱として有機的なつながりを持ち、常に前進が見られるようになりました。講師の先生方、そして学生の一人一人が明確な自覚を持つて一步一歩たゆまぬ努力をされて来たからにはかなりません。予備校に入ったからといって来年の合格を保証されたわけではなく、自分の力で難関を突破しなければならない。それだけに皆貞剣なのです。冗談が飛び出しますと、昭和二十年(三十一年代における明高への入学の意思決定は、親・兄弟、或いは先輩の推薦であったり、校風によっては次第に大学付属としての意識が高くなりつつあるようですが、付属だから入学を希望するのではなく教育目標がしつかりしているように思ひます。やはり付属だから入学を希望するのではなく教育目標がしつかりしている、或いは校風に魅力を感じる等の理由によって入学され、充実した学校生活を送つて頂きたいと思いま

す。ホテルニューオータニ
代表取締役副社長
岡本孝吉

立四十三年卒
千代田区紀尾井町四一
一六五一一一二二四
四三三一九一九

立四十四年卒
千代田区新橋五一七一
四金ビル4F
八四〇一〇二四一

立四十五年卒
港区新橋五一七一
四七二二四一七三三
八六二一七六六五

立四十六年卒
中央区日本橋大伝馬町二二
一六六二三二六二
一三四六七八三六一四

立四十七年卒
墨田区東神田一丁一
一七六六五

立四十八年卒
足立区中央本町四一
一四一八

立四九年卒
小田島保男
株式会社久松屋
八四〇一〇二四一

立四十年卒
千代田区東神田一丁一
一七六六五

立四一年卒
千代田区菊川一丁一
五十四

立四二年卒
六三三二二六一四

立四三年卒
墨田区南青山六一八一七

立四四年卒
一三四九九一〇八〇六

立四五年卒
一三四九九一〇八〇七

立四六年卒
一三四九九一〇八〇八

立四七年卒
一三四九九一〇八〇九

立四八年卒
一三四九九一〇八一〇

立四九年卒
一三四九九一〇八一一

立四九年卒
一三四九九一〇八一二

立四九年卒
一三四九九一〇八一三

立四九年卒
一三四九九一〇八一四

立四九年卒
一三四九九一〇八一五

立四九年卒
一三四九九一〇八一六

立四九年卒
一三四九九一〇八一七

立四九年卒
一三四九九一〇八一八

立四九年卒
一三四九九一〇八一九

立四九年卒
一三四九九一〇八一

立四九年卒
一三四九九一〇八二一

立四九年卒
一三四九九一〇八二二

立四九年卒
一三四九九一〇八二三

立四九年卒
一三四九九一〇八二四

立四九年卒
一三四九九一〇八二五

立四九年卒
一三四九九一〇八二六

立四九年卒
一三四九九一〇八二七

立四九年卒
一三四九九一〇八二八

立四九年卒
一三四九九一〇八二九

立四九年卒
一三四九九一〇八三〇

立四九年卒
一三四九九一〇八三一

立四九年卒
一三四九九一〇八三二

立四九年卒
一三四九九一〇八三三

立四九年卒
一三四九九一〇八三四

立四九年卒
一三四九九一〇八三五

立四九年卒
一三四九九一〇八三六

立四九年卒
一三四九九一〇八三七

立四九年卒
一三四九九一〇八三八

立四九年卒
一三四九九一〇八三九

立四九年卒
一三四九九一〇八四〇

立四九年卒
一三四九九一〇八四一

立四九年卒
一三四九九一〇八四二

立四九年卒
一三四九九一〇八四三

立四九年卒
一三四九九一〇八四四

立四九年卒
一三四九九一〇八四五

立四九年卒
一三四九九一〇八四六

立四九年卒
一三四九九一〇八四七

立四九年卒
一三四九九一〇八四八

立四九年卒
一三四九九一〇八四九

立四九年卒
一三四九九一〇八五〇

立四九年卒
一三四九九一〇八五一

立四九年卒
一三四九九一〇八五二

立四九年卒
一三四九九一〇八五三

立四九年卒
一三四九九一〇八五四

立四九年卒
一三四九九一〇八五五

立四九年卒
一三四九九一〇八五六

立四九年卒
一三四九九一〇八五七

立四九年卒
一三四九九一〇八五八

立四九年卒
一三四九九一〇八五九

立四九年卒
一三四九九一〇八六〇

立四九年卒
一三四九九一〇八六一

立四九年卒
一三四九九一〇八六二

立四九年卒
一三四九九一〇八六三

立四九年卒
一三四九九一〇八六四

立四九年卒
一三四九九一〇八六五

立四九年卒
一三四九九一〇八六六

立四九年卒
一三四九九一〇八六七

立四九年卒
一三四九九一〇八六八

立四九年卒
一三四九九一〇八六九

立四九年卒
一三四九九一〇八七〇

立四九年卒
一三四九九一〇八七一

立四九年卒
一三四九九一〇八七二

立四九年卒
一三四九九一〇八七三

立四九年卒
一三四九九一〇八七四

立四九年卒
一三四九九一〇八七五

立四九年卒
一三四九九一〇八七六

立四九年卒
一三四九九一〇八七七

立四九年卒
一三四九九一〇八七八

立四九年卒
一三四九九一〇八七九

立四九年卒
一三四九九一〇八八〇

立四九年卒
一三四九九一〇八八一

立四九年卒
一三四九九一〇八八二

立四九年卒
一三四九九一〇八八三

立四九年卒
一三四九九一〇八八四

立四九年卒
一三四九九一〇八八五

立四九年卒
一三四九九一〇八八六

立四九年卒
一三四九九一〇八八七

立四九年卒
一三四九九一〇八八八

立四九年卒
一三四九九一〇八八九

立四九年卒
一三四九九一〇八九〇

立四九年卒
一三四九九一〇八九一

立四九年卒
一三四九九一〇八九二

立四九年卒
一三四九九一〇八九三

立四九年卒
一三四九九一〇八九四

立四九年卒
一三四九九一〇八九五

立四九年卒
一三四九九一〇八九六

立四九年卒
一三四九九一〇八九七

立四九年卒
一三四九九一〇八九八

立四九年卒
一三四九九一〇八九九

立四九年卒
一三四九九一〇九〇〇

立四九年卒
一三四九九一〇九〇一

立四九年卒
一三四九九一〇九〇二

立四九年卒
一三四九九一〇九〇三

立四九年卒
一三四九九一〇九〇四

立四九年卒
一三四九九一〇九〇五

立四九年卒
一三四九九一〇九〇六

立四九年卒
一三四九九一〇九〇七

立四九年卒
一三四九九一〇九〇八

立四九年卒
一三四九九一〇九〇九

立四九年卒
一三四九九一〇九〇一〇

立四九年卒
一三四九九一〇九〇一

総明会主催による 第一回講演会を 母校で開催

講師 吉田三陸



「第21回総会」

明駿会代表幹事

加藤真義 報告

本同窓会の名称が「総明会」と改められて初めての第21回総会が、昭和60年10月5日(土)、東京プリンスホテルで行なわれた。

出席者総数が三二六名というかつてない人数となり、盛会のうちに、ホスト学年明駿会(昭和三六年卒)の田中確正君の司会で、会は進められた。

総明会の事業の一つとして、母校の生徒を対象とした講演会を開催することが決められ、向殿政男理事(昭和三十六年卒明駿会)を中心にしてその具体化を検討していたが、保坂校長もこの事業の推進に期待をおられ、総明会と母校との間で数回の打合せをした後、第一回講演会がこの七月十五日午後一時半より約五十分間母校の視聴覚教室に於て、高二の生徒を対象として開催された。

講師は吉田三陸氏。同氏は母校を昭和二十六年に卒業され、明治大学文学部英文学科に進学、同大学院の課程を経て母校英語科にて教鞭をとられ、その後母校を退職してアメリカオハイオ州立マイアミ大学にて日本語、日本文学の講座を担当され、現在は同大学准教授(助教授と教授の中間の地位)の職にある。

この日は、まず総明会副会長小林昭雄氏が挨拶及び総明会について説明をし、近い将来会員になる母校の生徒を激励した後吉田氏を紹介して吉田氏の講演が始った。

講演の内容は「なぜ英語を学ぶか」という題で、吉田氏が苦々と/or、「あなた」という日本語を例に、アメリカでは学生は教師に対しても大統領に対しても「あなた」とは言わないこと

小林副会長の開会の辞に続いだ。坂本会長の挨拶と、卯木専務理事及び大場財務理事のそれ務理事及び大場財務理事のそれ務理事及び大場財務理事のそれ

会務報告の後、来賓として、保坂校長、後藤明太理事長、島田明大総長及び山本明

大学長の祝辞が述べられた。今回より初めて、明治高校退職教職員への感謝状が吉田貞男先生に贈呈された。又、今回、同窓会の会旗が完成したので、これについても披露された。その後、

坂本会長、保坂校長及び明駿会代表として加藤真義の三人による鏡割りにより総会がしめくられ、片岡名誉会長の乾杯により懇親会が始まった。懇親会では、明大マンドリンクラブOB会のなつかしい演奏と、スライドによる母校の紹介とが行なわれた。マンドリンにより、明中・高校の二つの校歌、帝都の真中と、白雲なびくが演奏された。

高校の歴史が、音楽とナレーションと共に映し出され、参加者になつかしさと共感とを呼び起し、大変好評であった。長く記念品として母校に語り継がれる事を期待して、このスライドも

明駿会幹事武田雅夫君から母校へ寄贈された。次期ホスト学年の紹介と校歌齊唱により君塚常勤理事が閉会を宣言して、今回の総会を成功裏に終ることができた。

ホスト学年が今回の総会を引き受けたに当たり、コンセプトとして『新旧の交流の輪を広げ、参加して楽しく意義のある総会に』を掲げた。初めてであるが明中・高校の現役の先生方の大半が出席して頂けたこと、これにより若手の卒業生が少しづつではあるが出席し始めたこと、夫人同伴者が約三十名もいたことは達せられたと自負している。

などと話をすると、初期の目的

は達せられたと自負している。

夫婦が約三十名もいたことは達せられたと自負している。

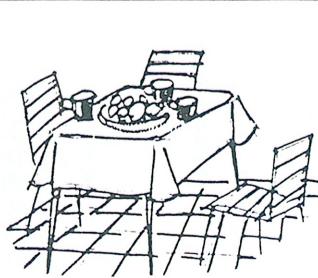
などと話をすると、初期の目的

</div

明高OBのお店ご紹介

おいしく
楽しく、しゃれた
お店です。

皆さんお誘い合って
一度たずねてみて下さい。

中原英風 中華料理 南 千代田区神田駿河台三丁目 二五三一七八四六 昭和三十三年卒	竹むら おしるこ 竹むら 33年卒 堀田喜久雄 神田店 交通博物館横 251-2328 原宿店 ラフォーレ原宿裏 403-0890	武井弘志 文京区本郷三丁目 八一一一八〇〇八 昭和二十八年卒	銀座大増 日本料理 本店 中央区銀座中央通り6丁目(松坂屋前) 代表取締役社長 守田 満(23年卒) 斎詰営業部 工場長 大恵 稔(25年卒) たま川の里(玉川高島屋SC南館6階) 店長 高橋和幸(22年卒)	中原の旅 食堂車でロマンと美食の饗宴!! プティレストラン オリエント急行 TEL 03-252-9394・5 国鉄神田駅、地下鉄丸の内線大手町5分 千代田区内神田2-7-6 安和ビルB1
小村満 中央区日本橋人形町三丁目 六六一十四〇三四 昭和三十三年卒	小川英一 鳥料理 江戸清 中央区日本橋小伝馬町 一五一一四 六六一二九一八 昭和三十三年卒	須田英之 珈琲専科 台東区東上野一丁目 七一四 坂田ビルB1 八三三一七三一 昭和三十一年卒	服部弘三郎 天ぷら太黒屋 港区新橋三丁目 六六三一五六六三 四三二一五六六三 昭和三十年卒	キャプテンクラーク くらーく亭 YMCAレストラン ステーキハウス 明治の洋食
二村昌也 文京区本郷三丁目 二五二一五五二一 (八二)三四八六 昭和三十三年卒業	本郷二丁目交差点  本郷二丁目交差点 TEL (811) 4459代ヨシイケ	菊の家 小久保伸樹 江戸川区北小岩六丁目 六七一三〇一六 昭和三十三年卒	関澤茂 ホットボックス練馬店 練馬区練馬一丁目 五三一 九九一十五三二七 昭和三十三年卒	新製品 内閣最中 本郷店 平日 文京区本郷三丁目 二五二一五五二一 三四年卒 大森弘之 茅ヶ谷店 平日 文京区茅ヶ谷三丁目 二五二一四一七一九 三四年卒 大森弘之 手作りの和菓子をどうぞ 三原堂
岩崎與士 千代田区神田小川町三丁目 二九一十六九一〇 昭和三十四年卒柔道部OB会	鰻かねいち 上野店 昭和31卒 鈴木勝 港区新橋三丁目 六六三一四五八〇 昭和三十六年卒柔道部OB会	鈴木愛忠 スナック すずき 千代田区丸の内二丁目 一四一六六 丸ビル地下街 二〇一四一六六 昭和三十三年卒	よし乃鮓 神林佳弘 北区王子二丁目 一八九一四一七二一四 昭和三十三年卒	ラーメン 開 樂 白沢直樹 千代田区外神田三丁目 二五二一四八四一五 昭和三十三年卒
鈴木隆夫 千代田区神田神保町一丁目 二九一十九二三二 昭和36卒	鰻かねいち 神保町店 八三一七二三二 昭和31卒 鈴木勝 港区新橋三丁目 六六三一四五八〇 昭和三十六年卒柔道部OB会	鈴木愛忠 スナック すずき 千代田区丸の内二丁目 一四一六六 丸ビル地下街 二〇一四一六六 昭和三十三年卒	デリカテッセン・ギンザ・オリチャレ 支那麺 はしご 中央区銀座5-2-1 東芝ビルB1F 572-5008 支那麺 はしご 葛飾区新小岩1-50-10 651-7210 34年卒 小川靖男 三田幹男 42年卒	すき焼 割烹 石橋義一 千代田区外神田三丁目 二五二一四八四一五 昭和三十三年卒
印刷文字を 大新聞なみに 大きくしたので 広告スペースが 小さくなつてしまつた事をお詫び致します。		ほうらい鮓本店 日本ばしすし鉄 中央区日本橋三丁目 一七三一七 二八一一七三三 二七一〇八七八 代表取締役 相澤宏夫 ほうらい鮓本店 中央区日本橋三丁目 一七三一七 二八一一七三三 二七一〇八七八 代表取締役 相澤宏夫	ちゃんこ 巴湯 本道和夫 品川区大井一丁目 七七一三七七五 昭和三十三年卒	墨田工藤建次 工藤建次 六三一六七三九 昭和四十二年卒柔道部OB